

指針見直し必要性を検討するための課題

番号	課題	指針 ページ	内容	議論の方向性・参考
1	保全活動の 人材確保	P11, 13, 18, 20, 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化に伴う会員減少 ・活動に参加する人の固定化 ・後継者の不足 人的不足に伴う持続的活動への危惧	<ul style="list-style-type: none"> ・団体アンケートの結果より (認定・認定外) ・高齢化や後継者不足の状況を踏まえつつ、指針の施策について議論
2	活動団体の運 営資金の確保	P11, 13, 18, 19, 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動資金の不足 ・補助金以外の活動資金の確保 6次産業化 観光事業(ツアー等)の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・団体アンケートの結果より (認定・認定外) 補助金以外の資金確保に向けた取り組みを指針の施策について議論
3	県の支援策に ついて	P12～21	<ul style="list-style-type: none"> ・保全、資機材への補助 資機材の更新補助 ・情報交換(サミット等)の実施 さらに効果的な情報発信方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・団体アンケートの結果より (認定・認定外) 保全活動に対する補助の継続 資機材の更新時への補助拡充 意見交換会(サミット)開催の継続
4	都市住民の里 地里山の利活用	P11, 12, 18, 21, 22, 23	<ul style="list-style-type: none"> ・都市住民と活動団体とのニーズの違いがある。 ・都市住民の里地里山保全活動への参加が少ない。 里地里山を楽しむことが、保全活動への参加につながらない ・企業や大学との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・e-kanagawa アンケートの結果より →「まちの力」の活かし方 →都市住民の考え方 情報発信の効果的なあり方 都市住民の、里地里山保全活動への参加に向けた取り組み)や企業・大学連携の効果的な仕組みの検討
5	里の力	P11, 12, 14, 18, 1 9	<ul style="list-style-type: none"> ・里の力の考え方の整理 里とまちとの融和 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状は「里に住み、農林業を営み、その地域の特性を理解しており、地域に愛着のある人。」全部満たすのは難しい。

6	里の世話人	P11, 12, 14, 19, 23	<ul style="list-style-type: none"> ・里の世話人とは？誰が対応するのか？ ・コーディネート制度の活かし方 ・より一層、県、市町村、活動団体が連携・調整できるようにするための方策が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・当協議会よりも簡易な「よろず課題調整会議等」。 →サミットの活用？ 現地での交流会も検討 →色々やるには、団体は忙しい？ →聞き取り調査で対応？
---	-------	---------------------	---	---

【その他、検討事項】

- ・市町村独自の里地里山保全の取組について
 - 相模原市、厚木市、秦野市、南足柄市などで独自の補助制度がある
- ・活動団体への補助制度、支援のあり方について
 - 促進事業(補助事業)について、限られた予算での効果的な取り組みが必要
 - 現在、5年経過を単価 8 割。10年経過後の補助事業のあり方の検討
 - 資金提供ではない方策の検討